



第5回和温療法学会学術集会

ランチオンセミナー

Luncheon Seminar

日時

2026年10月17日(土) 12:25~13:10

会場

函館市民会館 小ホール

〒042-0932 北海道函館市湯川町1-32-1

爪郭部 毛細血管観察 における可能性

座長

木庭 新治 先生

昭和医科大学医学部 内科学講座
循環器内科学部門

演者

三浦 一郎 先生

帯広協会病院 病理診断科

オンライン登壇



共催：第5回和温療法学会学術集会／フクダ電子株式会社

爪郭部毛細血管観察における可能性

三浦 一郎

帯広協会病院 病理診断科

指爪郭部毛細血管観察は非侵襲性・簡便・低コスト・高再現性・高精度といった利点のある検査である。指趾の爪郭部（甘皮部分）は毛細血管ループが皮膚に対して水平に伸び、末梢血流が非侵襲的に観察可能であることから50年以上前から注目されていたが、近年ハンディな機器が開発されたことで簡便、短時間で観察、録画が可能になった。

爪郭部毛細血管は理想的な状態ではヘアピン状の長く蛇行のない毛細血管が幅1mmの範囲に9本以上確認される。ヘアピン状の形態を示さない血管について特定の疾患に結びつく所見が長く議論されてきた。その中で最も研究が盛んに行われているのは強皮症であり、2016年の強皮症診療ガイドライン診断基準に毛細血管所見が加えられ、その所見は**血管数の減少、毛細血管拡張、巨大ループ形成、微小出血、叢状血管**である。イタリアのCutoloらによればこれらの所見により病期の推測も可能とされている。

また、より一般的な疾患で毛細血管所見の報告があるのは高血圧における毛細血管数の減少、脂血異常症における血管径・血管幅の拡大、糖尿病における交叉などがある。私共は毛細血管の深部側において**複数の横向き血管**が見られた場合、有意差をもってBNPの軽度の上昇があることを発見し、第39回微小循環学会にて発表した。

これらの研究結果により心不全に対する和温療法の治療効果判定を毛細血管所見で評価できる可能性が示唆される。

本講演では現時点での毛細血管観察と臨床病態等に関する私共の知見について概略を紹介したい。